

東京 i CDCの活動状況について

※ 感染症対策の新たな拠点として10月1日に立ち上げ、モニタリング会議での報告等を通じて様々な活動を展開

(1) 専門家ボード (現在8チーム)

座長：賀来 満夫
(東北医科薬科大学特任教授・東北大学名誉教授)

① 疫学・公衆衛生チーム (R2. 10. 1～)

◆ 疫学調査に基づく感染リスクの分析・評価など

○ 都内主要繁華街における滞留人口モニタリング [1/21,2/2,2/10,3/4]【西田先生】

時間帯別主要繁華街滞留人口の推移 (2020年3月1日～2021年2月27日)



レジャー目的の夜間の人流は抑えられている一方で、
昼間の人流は宣言後にむしろ増加していること等を報告

○ 実地疫学調査チーム (TEIT) の活動状況と 感染対策のポイント [1/14]

2020年1月から12月までにTEITが派遣された事例

属性	対象者	内訳	終息時陽性者数
医療機関	34	500床以上-1000床未満	8
		100床以上-500床未満	19
		100床未満	7
高齢者介護福祉施設	8	特別養護老人ホーム	4
		デイサービス施設	1
		介護老人保健施設	1
		サービス付き高齢者向け住宅	1
		グループホーム	1
学校関連	1		7人
企業	5		3人から82人
飲食関連	2		(中央値11人)
夜の街	1		
計	51		

これまでの活動を踏まえ、医療機関・高齢者施設・
企業など、施設ごとの対策のポイントについて報告

② 感染症診療チーム

(R2. 10. 1~)

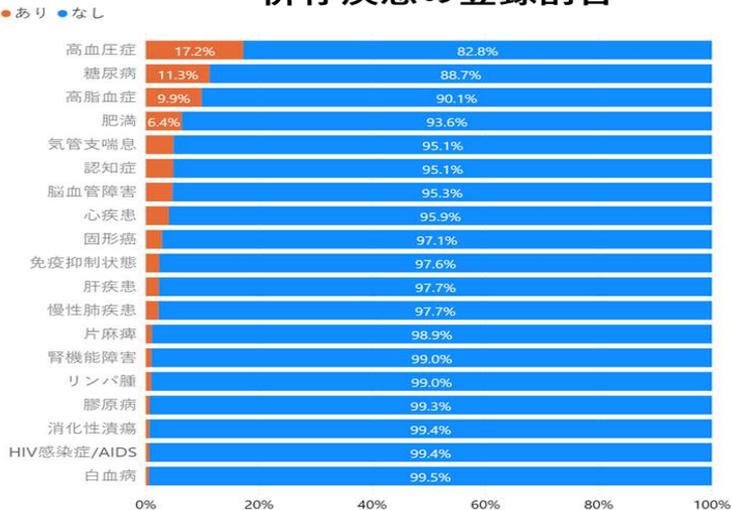
大曲 貴夫 (国立国際医療研究センター)
永井 英明 (国立病院機構 東京病院)

四柳 宏 (東京大学先端医療研究センター)
石田 直 (倉敷中央病院)

◆重症患者の症例分析等に基づく対策の検討など

○ 入院患者の症例データに基づいた解析 〔12/2, 2/4〕【大曲先生】

併存疾患の登録割合



* 複数入力はそれぞれ1カウントとしている

COVIREGI-JP 東京都

基礎疾患を有する場合に重症化している例があることなどを報告

○ 後遺症に関する疫学調査〔2/4〕【大曲先生】

コロナ後遺症における主な症状の年齢別頻度 (発症14日時点)

せき、呼吸困難、倦怠感のほか、20歳代は、嗅覚障害、味覚障害の割合が高い。

	1位	2位	3位
20歳未満 (n=2)	-	-	-
20歳代 (n=12)	嗅覚障害 (50%)	味覚障害 (47%)	たん (33%)
30歳代 (n=6)	せき (50%)	呼吸困難 (50%)	倦怠感 (50%)
40歳代 (n=15)	せき (33%)	倦怠感 (27%)	呼吸困難 (27%)
50歳代 (n=10)	せき (80%)	倦怠感 (40%)	呼吸困難 (40%)
60歳代 (n=8)	せき (50%)	嗅覚障害 25%)	呼吸困難 (25%)
70歳以上 (n=10)	せき (60%)	倦怠感 (60%)	呼吸困難 (60%)

(下線部は同順位)

若者でも何らかの後遺症が認められることなどを報告

③ 検査・診断チーム

(R2. 10. 1~)

石井 良和 (東邦大学)
三嶋 廣繁 (愛知医科大学大学院)

宮地 勇人 (東海大学)
柳原 克紀 (長崎大学大学院)

◆検査・診断体制の充実にに向けた対策など

○ 「新型コロナと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応方針」等について意見交換

○ 多様な検査機関におけるPCR検査等の精度確保、スクリーニング検査等の課題について意見交換

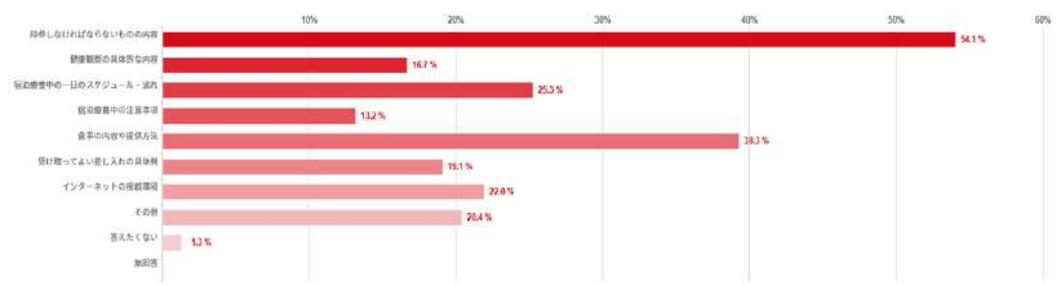
④ リスクコミュニケーションチーム (R2. 10. 1~)

奈良 由美子 (放送大学) 小坂 健 (東北大学大学院)
田中 幹人 (早稲田大学) 武藤 香織 (東京大学医科学研究所)

◆情報発信、情報収集、調査・分析など

○宿泊・自宅療養者向けアンケート調査の実施〔1月28日～〕

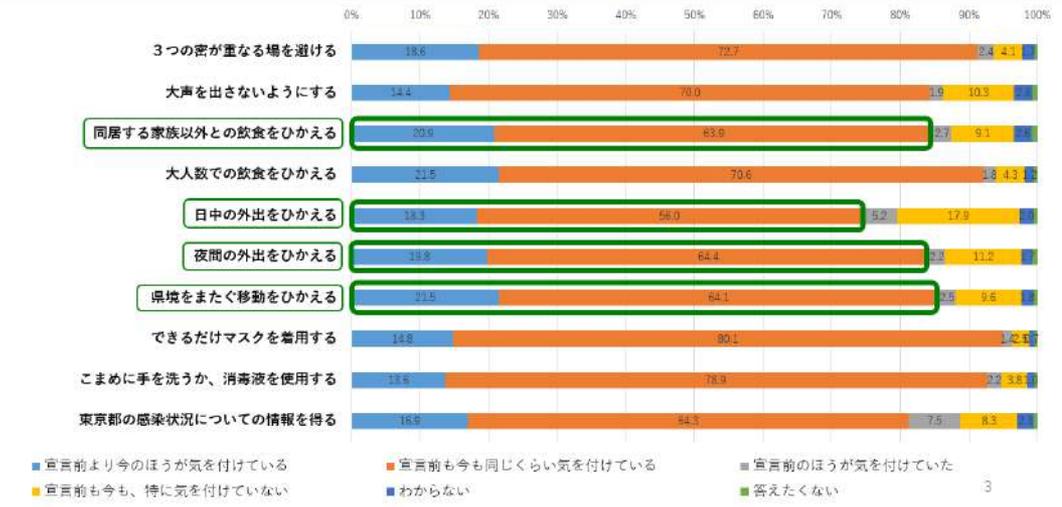
Q6. 療養生活に向けて、事前にこういった情報提供があったほうが良いと思われたことはありましたが、いくつかもお選びください。
(回答数: 455)



○回答状況等について、**リスコミの専門家と都の宿泊・自宅療養担当者で意見交換**
○回答結果を踏まえ、**HP等の広報ツールを改善**
○**20代・30代の療養した方からのメッセージをnoteで発信**

○緊急事態宣言下の都民意識に関する調査結果を公表〔3/4〕

Q1 新型コロナの対策について、今回の緊急事態宣言が出る前と比べて、宣言期間中（2021年1月8日～）のあなたにあてはまるものを、それぞれ1つ選んで下さい。



<調査結果(抜粋)>
○「同居する家族以外との飲食をひかえる」など割合が低い項目もあるものの、**多くの都民が、基本的な感染予防対策をとっている**
○**感染状況と医療供給体制とを心配している**
○**ワクチン関連を含めた情報を必要としている**

ことなどを確認、モニタリング会議で報告

⑤ 感染制御チーム

(R2. 12. 1～)

松本 哲哉 (国際医療福祉大学)
具 芳明 (国立国際医療研究センター)
光武 耕太郎 (埼玉医科大学)

國島 広之 (聖マリアンナ医科大学)
菅原 えりさ (東京医療保健大学大学院)

◆家庭、職場など様々な場面に応じた感染防止対策

○ 年末・年始に向けた都民向けのメッセージ [12/17]

いつもと違う年末・年始 会食は控えめに

- 家族や普段から一緒にいる人と**少人数**で行きます
- 食事・飲酒は短めにします
- 食事と歓談の時間をわけます
- 会話の時はマスクをつけて
- 会話は静かに、大きな声で話さない
- 会食中は、席を立たずで、手酌で
- **忘年会・新年会は、避けます**

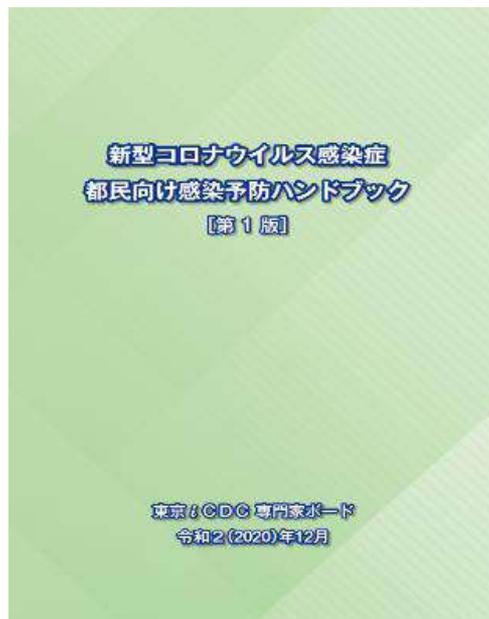


いつもと違う年末・年始 5つの約束

1. いつも一緒にいる人と過ごす
2. 人の多いところにでかけない
3. 常にマスクを忘れない
4. 常に手洗いを忘れない
5. 常に換気に注意する



○ 「都民向け感染予防ハンドブック」を作成 [12/17]



○ 「自宅療養者向けハンドブック」を作成 [1/21]



⑥ 微生物解析チーム

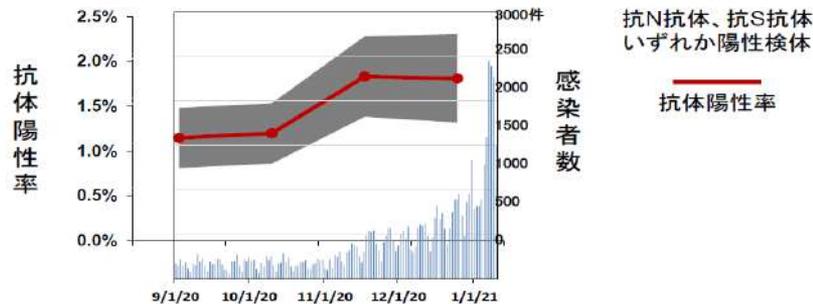
(R3. 1. 4～)

片山 和彦 (北里大学) 森田 公一 (長崎大学熱帯医学研究所)
 長谷川 秀樹 (国立感染症研究所) 松山 州徳 (国立感染症研究所)
 小原 道法 (東京都医学総合研究所) 吉村 和久 (東京都健康安全研究センター)

◆ウイルスの伝播性・病原性・遺伝子変化などを解析

○ 東京都における大規模抗体疫学調査〔1/28〕
 【小原先生】

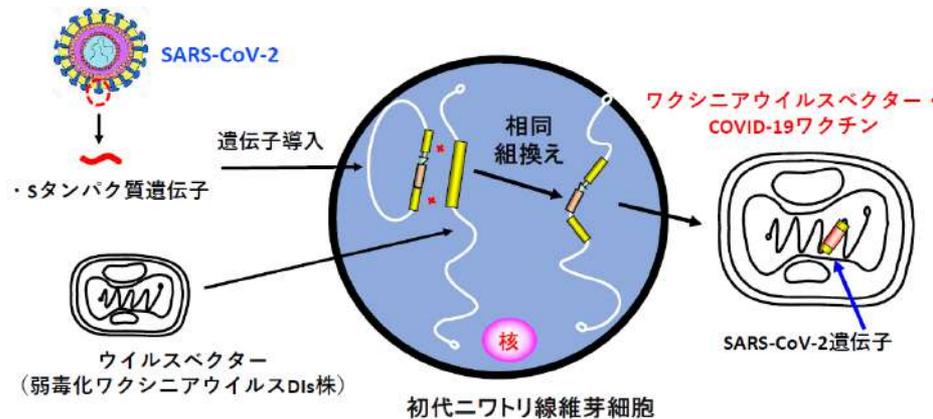
抗体陽性率と感染者数の推移



	9月	10月	11月	12月	全期間
全体数	3837	4006	3438	2815	14096
陽性率 (%)	1.15	1.2	1.82	1.8	

大まかに100人に2人が抗体を持っていることや一度感染しても再感染する可能性があることなどを報告

○ ワクシニアウイルスベクターを用いたワクチンの開発〔1/7〕
 【小原先生】



一度受ければ一生免疫が持続すること、ウイルスの変異にも対応できることが期待されるワクチンの開発

⑦ 研究開発チーム

(R3. 1. 4～)

大毛 宏喜 (広島大学病院) 矢野 寿一 (奈良県立大学)
 掛屋 弘 (大阪市立大学大学院) 井上 豪 (大阪大学大学院)
 宮田 裕章 (慶應義塾大学) 井元 清哉 (東京大学医科学研究所)

◆ウイルスの制御に関する様々な分野の情報収集、知見の応用

○ 各メンバーの研究の紹介とこれにともなう意見交換を実施

- (研究例) ・菌やウイルスを不活化する活性種を必要な時に必要な量だけ生成する「MA-T」
- ・換気が困難な室内における感染対策機器(紫外線・オゾンなど)による感染症対策

⑧ 人材育成チーム

(R3. 3. 30設置)

泉川 公一 (長崎大学病院) 高橋 聡 (札幌医科大学)
 加來 浩器 (防衛医科大学校) 渋谷 智恵 (日本看護協会)
 中村 茂樹 (東京医科大学) 朝野 和典 (大阪大学医学部付属病院)

(2) タスクフォース

① 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ 同時流行に関するタスクフォース (R2. 9. 23～)

座長：森村 尚登
(東京大学大学院教授)

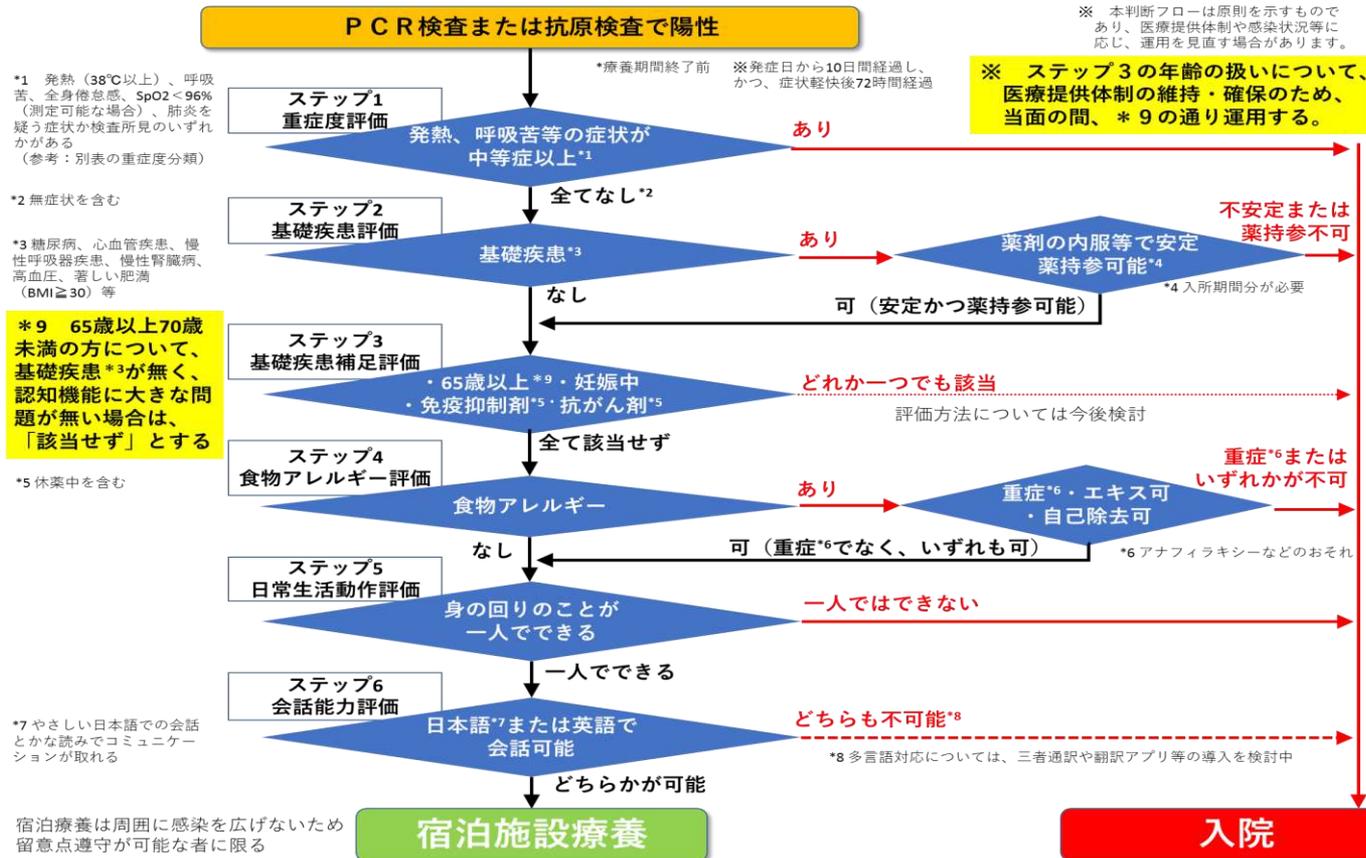
- 同時流行に備えた相談・診療・検査体制の構築に係る対応方針を検討

② 新型コロナウイルス感染症の医療提供体制に関するタスクフォース (R2. 11. 6～)

座長：森村 尚登
(東京大学大学院教授)

- 「新型コロナ患者の宿泊施設療養/入院 判断フロー」を作成

新型コロナウイルス感染症患者の宿泊施設療養/入院 判断フロー (Ver3)



③ 安心な街づくり（歓楽街対策）タスクフォース

(R2. 12. 15～)

座長：今村 顕史
(東京都立駒込病院)

- 感染源となる歓楽街対策を検討するため、関係事業者とのヒアリングを実施するとともに、今後のモニタリング検査の実施等に向け、方向性などについて意見交換

④ 新型コロナウイルスのゲノム解析に関する検討チーム(タスクフォース)

(R2. 12. 28～)

座長：河岡 義裕
(東京大学感染症国際研究センター長)

- 12月下旬から健康安全研究センターで変異株のスクリーニングを行い、都内での感染状況を把握

	合計数	12.27まで	12.28-1.3	1.4-1.10	1.11-1.17	1.18-1.24	1.25-1.31	2.1-2.7	2.8-2.14	2.15-2.21	2.22-2.28	3.1-3.7	3.8-3.14	3.15-3.21	3.22-3.24
変異株PCR検査実施数	3,291	189	180	482	371	285	246	135	367	241	187	175	204	129	100
健安研	2,431	189	180	482	371	285	246	135	107	69	65	48	67	87	100
民間検査機関	860	—	—	—	—	—	—	—	260	172	122	127	137	42	0
陽性例の数	21	0	0	0	1	1	2	1	3	0	0	3	3	5	2
健安研	19	0	0	0	1	1	2	1	3	0	0	3	2	5	1
民間検査機関	2	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	1	0	1
(うちゲノム解析確定例数)	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0
健安研	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0
民間検査機関	0	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0

3月25日18時現在

<変異株有無のスクリーニング検査実績>

約3,200件を検査し、21件で変異株陽性(3/25 18時現在)

- 健安研に加えて、2月から民間検査機関でも新たにスクリーニングを開始

⑤ 感染状況の予測と対策を検討するタスクフォース

(R3. 1. 27～)

座長：賀来 満夫
(東北医科薬科大学特任教授・東北大学名誉教授)

- 新規陽性者数の目標値、変異株の影響、感染を抑える手法等について検討

⑥ ワクチン情報検討タスクフォース

(R3. 2. 15～)

座長：賀来 満夫

(東北医科薬科大学特任教授・東北大学名誉教授)

- ワクチンについて都民への分かりやすい発信に向けて、安全性や副反応などの情報について検討

⑦ 感染予測シミュレーション検討タスクフォース

(R3. 3. 9～)

座長：賀来 満夫

(東北医科薬科大学特任教授・東北大学名誉教授)

- 滞留人口モニタリングと数理モデルを統合した、新たなシミュレーションのモデルについて検討

(3) 感染対策支援チーム

(R2. 10～)

- 保健所の要請に基づき、**病院や高齢者施設等に派遣し**、感染拡大防止対策の支援を実施
(2週に1回チームミーティングを実施)

<派遣実績> 10/1～3/26 55件 161回

(単位：件)

種別		10月	11月	12月	1月	2月	3月 (26日まで)	小計
1	病院	11	4	8	20	29	20	92
2	診療所	-	1	-	-	-	1	2
3	高齢者施設等	1	-	-	15	25	26	67
小計		12	5	8	35	54	47	161

(4) WEBによる情報発信

(R2. 10. 30～)

- noteに記事を投稿 (LINEやTwitterなどにも展開)

⇒ モニタリング会議報告事項の解説、メンバーの研究紹介等

<note閲覧数>

5,807 [11/2] → 209,886 [12/28] → 458,764 [1/29] → 661,789 [2/18] → 776,600 [3/29]